

輝き続ける母校のために

113/117年～これまでも、そしてこれからも～

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報 特集号「弥生を愛する同窓会」

発行日：令和6年9月1日

「ご挨拶」

同窓会長 下島典子



皆様お元気でいらっしゃいますか。

始めに喫緊の同窓会活動を紹介します。

3月の制服リユースでは企業のご協力を得て、44名の新入生が先輩から譲り受けた制服で入学式を迎えました。

5月の総会では、柘植伊佐夫さんのトークショーと軽音楽部の演奏が好評を博しました。また弥生展の際、初めての試みとしてワークショップも楽しく行われました。

6月の弥生祭では昨年に引き続き、校章入りのどら焼きとおまんじゅうを販売いたしました。生徒会の活動支援を目標に始めた活動ですが、本年度は2,000個完売することができました。同窓生も多数来校し、おまんじゅうの購入とともに交友を温めることができました。ありがとうございました。

さて、同窓会報は毎年会員の皆様のお手元に届いているでしょうか。これまで上伊那郡内にお住いの会員には地域の役員を通して配布し、郡外の会員には郵送にてお届けしています。その中で会員から「会報はもらってない」「紙媒体での会報は必要ない」「手元に届くからありがたく読める」など、様々な声をいただいております。役員会でもこのことを取り上げ、今後の方向を含め検討しております。会報を通して同窓会の活動内容とともに「今どきの高校生のみまび」を皆様にお伝えすることも大事にしています。

今号は改めて「同窓会の目指す方向と現状について」を会員一人一人にお伝えし、新校開校が迫る中、今後の同窓会のあり方を皆様とともに考えて参りたいと思い、特集号を作成しました。百余年続いてきたこの弥生ヶ丘高校が最後まで輝き続けるために、同窓会としての最後の道を考え、最後の卒業生まで応援し、見守ります。新校がこれからの子供たちに望まれる学校になるよう、同窓会としてできることを支援していく所存です。

「心の支え」

学校長 松村 明



校長室から見える校門の銀杏並木の葉が両側から通路を覆い、アーチのようになって生徒や訪問者を迎え入れています。八木貞助三代校長が大正14年に植樹された銀杏は99年目を迎え、凛としたその姿は弥生ヶ丘の象徴として私たちに安心感を与えてくれる存在です。

昨年度の夏は「地球沸騰」と言われたように、異常な暑さでした。ホームルーム教室にはエアコンは完備されていますが、新入生の3分の2にあたる生徒が選択する美術教室と書道教室にはエアコンがありませんでした。ホームルーム教室以外の場所については、コロナ対策による予算を活用してできる限り設置してきました。昨年度5月にコロナが5類感染症に移行してから、コロナ対策という名目のエアコンに係る予算がなくなりました。夏前に、「秋になればエアコンの県の予算がつくかもしれない」という情報が入りました。新入生の大半の生徒に芸術の授業で我慢を強いることに心が痛みました。

10月になって予算がつきましたが、どちらか片方の教室しか設置できない額でした。どちらにするか選ぶわけにもいかず、同窓会に相談をしたら「支援します」と心強いお言葉をいただき、有難く支援をお願いしました。

私は赴任して4年目になりますが、県費からはすべては支出できない探究の学びに係る講師謝金や交通費等の費用、篤志寄付による生徒会活動や部活動に係る設備整備等の費用など、これまで困ったときに毎年のように力強く支援していただける同窓会には感謝に堪えません。生徒の学習環境を整えるのは校長の仕事です。9年間在職された八木貞助校長先生のように伊那高等女学校校舎建設や敷地内樹木植樹事業など県と折衝して予算を取ってくるという辣腕を振るうことができないため、同窓会の支援は私の心の支えになっていました。本当にありがとうございました。

今号は「同窓会の現状と課題」特集号

2028年に新校が開校することに伴って、母校は明治44年の創立から117年という長い歴史に幕を下ろすこととなります。閉校まで4年となった私たちの大切な母校がずっと輝き続けられるよう、また母校への想いを多くの同窓生と共有できるよう、今号は内容を変更してお届けいたします。

なお、例年会報に掲載していた内容については、当会のホームページ、インスタグラム、フェイスブックをご覧ください。



【伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会】伊那市西町5703 0265-76-0615 <http://www.inayayoi-dousoukai.com/> yayoidoso@heart.ocn.ne.jp

Q1 そもそも…同窓会っていったい何？ 何をしているの？

【意義とは】

同窓会は、卒業生同士が親睦を深め、母校への支援を目的として組織されるものです。

仲間と過ごした日々や恩師との絆は簡単に数字などで表すことのできない母校の価値です。母校の素晴らしさを同窓生に伝え、母校への感謝を示すため、また後輩たちが安心して学校生活を送ることができるよう、同窓生が様々な形で母校へ還元していくことが大切です。

同窓生というキーワードで繋がっている「知縁」なのです。

【新校開校にあたり】

2028年4月、母校と伊那北高校の2校が再編統合され、伊那新校(仮称)が開校します。新校は、現在の伊那北高校校地に校舎が建設され、母校の第2グラウンドも活用される予定です。

新校では「自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校」を構想した新たな教育課程が導入されます。また、普通科と特色学科が設置され、地域と大学、研究機関等との協働による「探究」を核とし、個別最適な学びが実現されます。

統合に際して

母校が開校されたあと、同窓会組織をどのような形にするのが良いのか、同窓生にとっての同窓会の役割を再確認するとともに、今後の方向性を伊那北高校同窓会とともに検討していきます。

母校跡地の将来活用については、この場所が想い出の地として、絆を育むことができるよう、また学びの場であった地を引き続き教育面で利活用されるよう、関係機関とともに考えていきます。

閉校に際して

これまでの母校の歴史と伝統を尊重し、感謝と敬意を表す大切な機会となります。閉校は寂しいことですが、想い出を大切にしながら、これまで培われた伝統がより良い形で新校に引き継がれることを期待しています。

県教委の動向を見守りつつ、同窓会としてできることに取り組んでいきます。

本年度より、閉校記念誌の編さんに取り掛かりました。

【活動の状況】

同窓生同士の交流の場として 心の拠り所となれる同窓会を目指しています

○総会の開催 … 主に、その年に還暦を迎える学年が当番学年として出席しています。学年全体の懇親会なども企画され、懐かしい思い出話ができる素敵な一日となっています。この日にあわせて母校見学もしています。

また現役生徒も総会に花を添えてくれています。

○講演会や演奏会の開催 … 毎年総会にあわせて講演会や演奏会を企画しています。これまでに登山家の田部井淳子さん、歴史学者の笹本正治さん、長野朝日放送の草田敏彦アナウンサー、人物デザイナーの柘植伊佐夫さんの講演会、また演奏会では活躍中の同窓生の声楽家などを招いてきました。これらは一般の方にも多く聴講していただいています。

○弥生展、ワークショップの開催 … 弥生展では、その道を究めている会員による多彩な作品の数々を紹介しています。また今年度はその方々等が講師となって8つのワークショップ講座を開催し、一般公開しました。

○会報発行やホームページ、SNSを活用した発信 … 活動の様子など、旬な情報をいち早く発信しています。

後輩が様々な場面で輝けるよう応援しています

○母校の教育環境整備 … 特別教室へのエアコン設置、ICT学習設備整備、探究学習支援、高額備品寄贈 etc

○新入生と卒業生へのお祝いまんじゅう贈呈

○全国大会出場クラブ激励金贈呈

○卒業証書ホルダー贈呈

○制服リユース事業…卒業生から制服を譲っていたが、新入生や在校生にクリーニング代のみで譲渡しています。3年目となった今年は、地元のクリーニング店にご協力いただくことができました。先輩から後輩へ思いが繋がり、新入生44名の方にご利用いただきました。

○弥生祭出店…校章の焼き印が入ったどら焼きとおまんじゅうを販売し、その利益を生徒会に寄付しています。

これらの活動は、皆様からいただく

会費に支えられています

Q2 同窓会費って…いつから、どうして集めるようになったの？

平成24年度から会費納入制度を導入しました。

それまでは新入生の入会金のみで運営されていたため、年一回の総会開催の経費の他は、通信費、光熱水費と全国大会に出場するクラブへの激励金のみであり、本来同窓会として役割を担わなければいけない母校や後輩への支援、同窓生同士の交流などの活動を充実させることができませんでした。

百年を超える歴史にふさわしい活動ができる体制を確立させていくためには、会員の皆様から会費を納めていただき同窓会の役割を果たしていくことが必要であると考え、年会費1,000円を、上伊那地域在住の方は地区の役員さんによる集金、それ以外の方は郵便局からお振込みいただくという形の会費納入制度を導入しました。

また平成27年度よりは、納入制度をより効率よく運営し継続していくために、終身会費納入制度を導入し、年齢による特例措置を設けました。

会費は、会員の皆様が母校へ寄せる温かなお気持ちとして、大切にに使わせていただいています。おかげさまで母校と後輩のため、県費では賄いきれないものを始め、コロナ禍においては早急に必要となったICT環境などをいち早く整える支援ができ、学校からも大変感謝されています。

Q3 現役高校生と同窓会との関わりは？

現役高校生と同窓会の関わりは多岐にわたります。学校公開や授業参観を通じて現状の教育課程を理解し、教育備品の購入や環境整備に役立っているほか、音楽系クラブの定期演奏会の観賞やクラブの地域貢献の際の支援も行っています。また、生徒たちは同窓会総会で会場設営の手伝いや呈茶サービス、写真撮影などで総会を盛り上げ、日頃のクラブ活動を舞台で発表するなど多大な協力をしてくれています。文化祭出店の際のTシャツのデザインも手掛けてくれました。同窓会ネットワークを活用してキャリア教育や探究学習のサポートも行うなど、現役高校生と同窓会の関係は、母校に対する双方の思いから生まれる温かなつながりとなっています。

Q4 4年後には母校が閉校してしまうのに…まだ会費を集めるの？

閉校後の同窓会の展望については不確定であるため会費納入に消極的である方、また疑問を持っている方も多いことと思います。しかし、2028年の閉校まではまだ後輩たちはこの学校で生活を続けていきます。

閉校後の同窓会がどのような形に移行していくのか、現時点での決定事項はありませんが、会員の皆様個々の納入状況のデータ、積立金の使途などに関する対応については十分な検討を行い適切に処理します。母校の将来活用や同窓会の今後のあり方などを考える中で、その財源として活用すること、母校の歴史や財産を保存、継承するための活動、新校同窓会の設立前後のサポートなど様々な活用が考えられます。

閉校を迎える今だからこそ…皆様の温かい思いがこもった会費が必要です。

- ◎ 閉校の日まで私たちの大切な母校と後輩が輝き続けられるよう、よりよい環境で、充実した教育が受けられるよう、より一層の支援を進めます。
- ◎ 地域貢献など様々な活動を活発に行い、同窓会に対する認識を深めていただき、母校への想いを会員が共有できるように活動を展開します。

<あなたのご意見をお聞かせください>

年代 20代以下 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

① 統合後の同窓会のあり方について、どうあったらよいとお考えでしょうか。(概要については2.3ページを参照)

- 新校開校とともに両校の同窓会も統合し、新校の同窓会として活動を続ける
- 新校開校後も、それぞれの同窓会はそのまま母校の同窓会として活動を継続する
- 母校の閉校とともに同窓会も閉会する
- 一定期間事後処理を行った後、適当な時期に両校の同窓会が統合する

② 毎年秋に会報をお届けしています。ご覧いただいているでしょうか。会報はホームページで閲覧できるので、紙ベースで送ることは必要ないのご意見がありますが、どのようなお考えでしょうか。

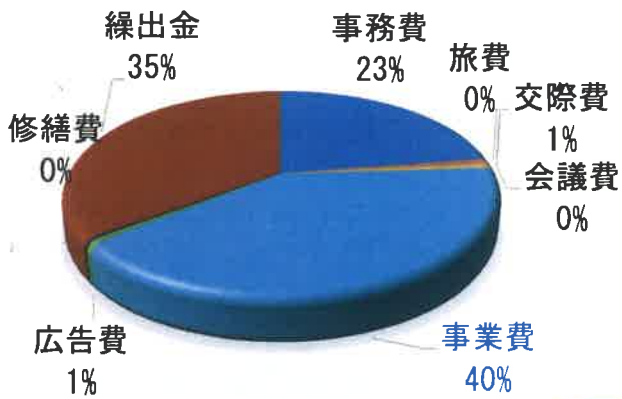
- 送ってほしい 送らなくてよい ホームページで見る その他()

<アンケートは事務局ファックスまたは Google フォームにてお願いいたします> ⇒



Q5 同窓会は、どんなことに使われているの？

〈R5一般会計決算〉

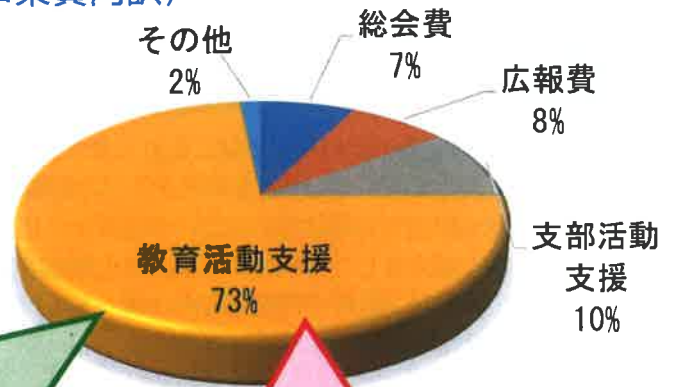


【同窓会コンセプト】

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会は…

- 生徒の教育活動充実を第一に考えます
- 役員は、オールボランティアで活動します
- 会費は飲食経費に使われていません
- 繰出金は、新校設立とその後の同窓会運営を見据えて積み立っています

〈事業費内訳〉



箏張替

弓道場防矢ネット設置



体育館天井整備



屋外物置設置



特別教室エアコン設置



茶道部茶席用野点傘奇贈



文化祭まんじゅう販売
(生徒会支援)



制服リユース事業



全国大会出場への激励支援金

【学校施設・環境整備に寄与】
特別教室へのエアコンの設置費用など、日常の生徒の学習環境整備や学校生活充実のための応援をしています！

【現役高校生を応援】
制服のリユース事業・弥生まんじゅうの売上金の生徒会寄付・全国大会への支援など、同窓会自らの活動も大事にしています！